

認定こども園にじのはねこども園

認定こども園第三者評価結果報告書

| 報告内容 | 公表／非公表 | ページ |
|-------------------|--------|---------|
| 運営法人情報 | 公表 | P1 |
| 理念・基本方針 | | |
| 施設の特徴的な取り組み | | |
| 第三者評価結果の総評 | | P2 |
| 第三者評価結果 | | P3～15 |
| 第三者評価確認書類リスト | 非公表 | P16～P17 |
| 公開保育への取り組みの様子（写真） | 非公表 | P18～P20 |
| 第三者評価結果（詳細） | 非公表 | P21～P42 |

（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

【運営法人情報】

| | |
|------------|---|
| 施設名称 | にじのはねこども園 |
| 運営法人名称 | 学校法人江楠学園 |
| 施設種別 | 幼保連携型認定こども園 |
| 代表者氏名 | 理事長 江口敏文 |
| 施設所在地 | 佐賀市鍋島町大字蛸久 6 4 6 - 3 |
| 電話番号 | 0952-30-0545 |
| FAX 番号 | 0952-30-0546 |
| ホームページアドレス | http://nijinohane.jp |
| メールアドレス | nijihane@song.ocn.ne.jp |
| 事業開始年月日 | 平成 26 年 4 月 1 日 |
| 教職員・従業員数 | 44 人 |
| 施設・設備の概要 | 鉄骨 2 階建て 敷地面積 4 1 1 9 . 9 6 m ² 建築面積 1 0 0 8 . 2 7 m ² 延床面積 1 2 9 8 . 7 5 m ² |

【理念・基本方針】

「保育理念」失敗を恐れず、思うようにやって、自分で考えて解決できる子本園の子どもたちは様々な失敗や生活体験を通して、思考力・意欲・思いやりといった大切な「生きる力」の基礎を身に付ける。失敗を成功に変えていくその過程こそが子どもに「生きる力」をつけると考え、大人が先回りし、失敗させないように指示するのではなく、子どもの行動を肯定的に受け止め、見守り、支え、解決への意欲に繋げるようにする。

【施設の特徴的な取り組み】

0 歳から 6 歳までの子どもたちの発達を捉えながら、環境を整えた教育・保育を行う。1 号認定子ども、2 号認定子ども共に同じカリキュラムを使い、給食やスクールバス利用など同じサービスを受けることができる。芝生の園庭、太陽光発電システム、屋上緑化など、環境に優しい園舎で子どもたちはのびのびと遊ぶ。

【評価機関情報】

| | |
|------------------|--|
| 評価機関名 | (公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 |
| 評価実施期間 | 平成 29 年 1 月 21 日 |
| 評価者 | (教育保育評価委員) H28A00540 (運営管理評価委員) H27B00126 |
| 公開保育コーディネーター・支援者 | 認定第 25-036 号、認定第 25-048 号 認定第 26-045 号 |

【総評】

●総合評価

評価〔AA〕

幼稚園の時から場所も園舎も一新し、新しい体制のもと子どもたちにとって、より良い施設になるよう努力している姿が見られる。教育施設はその質の向上に向けて、努力、改革を続けることが重要であり、貴園の姿は高く評価できる。これから教育内容についてさらに深いレベルでの研鑽を重ね、高いレベルでの教育実践が行われることを期待する。

●特に評価が高い点、園の良さ等

園長・主任のリーダーシップのもと教育課程・カリキュラムが組まれている。その考えが教職員にも伝わっていて、教育に反映されていた。特に評価の高い点として、子どもたちの主体性をどのように伸ばしていけるのかなど、学年を超えての繋がりを3歳以上児カンファレンス・3歳未満児カンファレンスの研修をすることで、0～6歳までの子どもたちの育ちの共有をしている点が挙げられる。

●課題、改善を求められる点

以前の幼稚園の教育方針から保育内容を一新した、創立3年目の認定こども園であり、教職員も一新されお互いの教育観をすり合わせている段階である。園長・主任のリーダーシップのもと新しい認定こども園づくりをしている段階なので、教育観を出し話し合いながら新しいにじのはねこども園を作り上げていただきたい。

●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

創立3年目の認定こども園という立場から、評価を受けることに対して不安があったが、高い評価をいただいて嬉しく思う。第三者に評価をいただくことは、理念や教育観を今一度振り返るいい機会ととらえる。初めての公開保育は事前の研修で課題などが明確になり、また、当日のカンファレンスで保育に自信を持った職員も数多く、これからの保育の方向づけに役に立った。これを機に職員一丸となって、子どもたちのために質の高い教育を目指して精進したい。

第三者評価結果

I 保育の公開に伴う保育のプロセス評価

1. 事前訪問時に抽出された自覚的な良さや課題

幼保連携型に変わるにあたって、建学の精神は残しつつ以前の幼稚園の教育観を一新するように取り組んでいる。一新していく中で、園長と主任が園の方針や教育についての方向性を話し合い、方向性を各先生たちに伝えられていると感じた。園長・主任は全体の子どもたちの育ちを理解し各学年に指導がいきわたっていると感じた。だが、職員間での各学年での横のつながりは共通理解ができているが、縦での職員間の教育の繋がりに課題が出てきたように感じた。

2. ①公開保育実施時の課題等

4月からの育ち、活動プロセス、クラスの課題（問い）を提示し公開保育を参観するなかで、課題（問い）を中心に意見や気づきなどを付箋で出し合う。課題（問い）については、0～2歳児は幼児期の育ち大切な感覚や動きから言葉や生活につなげていく課題（問い）、3～5歳児は教育要領に沿った課題（問い）が挙げられていた。

②公開保育後のカンファレンスにおける外部のから見た良さや課題

公開保育開会時に参観する学年を決めたことで、深いカンファレンスができている。また、自分では気づけなかった良さや、当たり前に行ってきたことにとっても良い評価が出ていて、園や各学年や先生たちの保育観を再認識できるカンファレンスになった。また、園長先生の理念、園の教育観が各先生たちに伝わっていることが感じられた。カンファレンス時の司会者（ファシリテーター）でご迷惑をかけた点は否めない。

3. 事後の園内研修において整理された良さや課題ならびに課題解決の方策

子どもも大人（保育者）も互いに尊重し合う園の雰囲気と、その信頼関係の中で、のびのびと遊びこめる子どもたちの姿は、園内研修の段階から自園の良さとして共通認識が図られていたが、公開保育後のカンファレンスで外部の者からそれを認めてもらえたことで、その良さを再確認できたようだ。一方課題としては、保育中の環境の再構成、教材研究、リスク・マネジメント、資源を有効に、そして大切に扱うことなどが園全体の課題として浮かび上がってきた。

今後これらの課題に対して、園内研修を通じて、優先順位を考え、個人で取り組むことか、全体で取り組んでいくのか等、一つずつ取り組んでいかれることと思う。

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

< A 教育・保育 >

① 子どもの人権、安全と健康

| | 調査項目 | 確認結果 |
|---|---|------|
| 1 | 一人一人の子どもの家庭環境や人種、文化等の違いを知り、異なる意見や価値観を認めあう心を育てよう努めている。 | 済・未 |
| 2 | 子どもや保護者、同僚を傷つけるような差別的な言葉や態度をしていない。 | 済・未 |
| 3 | 身体、性、年齢、発達之差等、生来的な差によって子どもに不当な不利益を与えるような言動やシステムがない。 | 済・未 |
| 4 | 園庭の環境（空間と遊具）や室内の環境（家具や動線）の安全性を、保育の中で注意・改善する視点がある。 | 済・未 |
| 5 | 子どもの成長や食べる意欲が大事にされた食育（食べることの全ての営み）がなされている。 | 済・未 |
| 6 | 園生活に必要な一つ一つの生活習慣が、先生と子どもに、共に大切に扱われている。 | 済・未 |
| 7 | 全ての子どもが「いる」だけで認められる、心理的な安全・安心が子ども集団（学級）のなかにある。 | 済・未 |
| 8 | 園生活の中で、大切にしたい信心（特定の宗教を含む）が自然と保育に融けこみ、子どもたちに愛情や感謝の気持ちが育っている。 | 済・未 |
| <p>(コメント)</p> <p>子どもの人権を尊重し、互いに認め合う関係性を園の保育者間のカンファレンス等を通して日々創りあげている努力が見られる。子どもの安全と健康については、文科省モデルを参考に安全計画を作成し、園内外の安全チェックを毎月、細かく実施している。また、食育について管理栄養士とともに食育計画を作成し、子どもにとってより良い「食」を常に求めていることが伺える。一人ひとりの子どもの側に立った丁寧な眼差しを感じる。</p> | | |

②保育者の資質向上・研修

| | 調査項目 | 確認結果 |
|--|--|------|
| 1 | 豊かな人間性を備えた保育者になることを、園として大切に考え支援している。 | 済・未 |
| 2 | 保育者の資質向上のためには、遊びと生活の専門性を高めることが必要であるという共通理解のもとに、教育・保育が行われている。 | 済・未 |
| 3 | 自園の教育・保育理念を十分に理解し、日々の実践に活かしている。 | 済・未 |
| 4 | 公開保育を通して、教育・保育の質を高める取組ができている。 | 済・未 |
| 5 | 職場における同僚性の向上を意識し、保育者集団としての力量を高めようとしている。 | 済・未 |
| 6 | 教職員一人一人が社会人としての自覚をもち、その役割を果たすことができるように、組織的な取組をしている。 | 済・未 |
| 7 | 子どもと関わることを喜び、子どもの遊びが豊かに展開されるような教育・保育をしている。 | 済・未 |
| 8 | 教職員一人一人が向上心を持って、研修など様々な学びの機会を得ようとする風土が園としてできている。 | 済・未 |
| <p>(コメント)</p> <p>保育者皆で学び合い育ち合う同僚性を基盤にして園内研修等を頻繁に実施している。子どもを夜7時まで保育しているという現実の中、園の保育者全員で研修する機会が取れない課題も在りつつ、研修を創り上げる園長、教職員の意欲は特筆すべきであろう。また「遊びこめる子どもを育てたい」を思いとして、子どもの遊びが豊かに展開していくことを自園の教育・保育理念に立ちながら実践していることは公開保育にも確かに現れている。</p> | | |

③ 子ども理解・指導の計画等・環境・実践・記録振り返り

1) 子ども理解

| | 調査項目 | 確認結果 |
|--|--|------|
| 1 | 乳幼児期の発達の過程を踏まえながら、一人一人の子どもの内面的な心情や意欲をくみ取り、様々な力を培っている姿を教職員全体が理解しようとする風土を持っている。 | 済・未 |
| 2 | 子どもの姿や育ち、実践について様々な手法（日誌、環境図、エピソード、写真、動画等）を用いて記録し、一人一人の子ども理解に努めている。 | 済・未 |
| 3 | 子どもの記録を園内での振り返りや園内研修等に活用し、子ども理解の共有を教職員間で図り、必要な援助を考え環境の構成を見直すなど、保育の計画に活用している。 | 済・未 |
| 4 | 遊びや活動の意味についてそれが子どもの成長とどう関連しているのか？記録を通じて理解し、実践に繋げようとしている。 | 済・未 |
| 5 | 園での子どもの育ちを保護者と共有しようと心掛け、家庭環境や家庭での育ちの状況も考慮しながら、子ども理解の幅を広げようと努めている。 | 済・未 |
| 6 | 特別な配慮を必要とする子ども一人一人の理解に努め、その子に応じた個別の指導計画を作成し、必要な援助を組織的、計画的に実践につなげている。 | 済・未 |
| 7 | 特別な配慮を必要とする子どもの家庭や専門機関、小学校等とも連携しながら、家庭支援や引継ぎ等における特別支援教育の幅広い環境整備を心掛け、多面的なアプローチで子ども理解を図っている。 | 済・未 |
| <p>(コメント)</p> <p>保育の記録が詳細かつ丹念に残されている。子どもの園でのようすを撮影した写真やエピソード記録を中心にした記録であるが、子どもの成長を確かめていく分析が、保育者それぞれにできている記録である。また、写真等を保育者のコメントを付し、公開し、保護者へ伝える取り組みも子ども理解と成長の喜びを保護者と共有していく、ひとつのモデルとなる事例と言えよう。特別な配慮を要する子どもについては市、小学校、保護者と密な連携をしつつ多面的な視点を持ち進めている状況がある。</p> | | |

2) 教育・保育の計画

| | 調査項目 | 確認結果 |
|--|---|------|
| 1 | 幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程と指導計画は、子どもの発達の姿から、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即して作成している。 | 済・未 |
| 2 | 子どもの発達の過程や発達の連続性を見据え、各園の教育・保育の理念や目標に基づいた保育計画によって実践を展開するために月案や週案等を作成して、実践につなげている。 | 済・未 |
| 3 | 日々の実践を振り返り評価し、明日の実践に反映し、教育・保育の質が向上するように計画を見直している。 | 済・未 |
| 4 | 個別に対応する必要がある場合については、個別の指導計画を作成している。 | 済・未 |
| 5 | 保護者の理解と支援の下に実践ができるように幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程は、保護者等に開示されている。 | 済・未 |
| 6 | 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解が深まる仕組みがある。 | 済・未 |
| 7 | 計画は実践につながりながら、気候やその日の子どもの状態等に即して柔軟な対応がなされている。 | 済・未 |
| <p>(コメント)</p> <p>「教育・保育理念」「目標」「めざす子どもの姿」「本年の努力目標」の4つをしっかりと掲げ、教育・保育課程を構築している。指導計画は毎週案を基本にして、子どもの姿を丁寧に捉えた保育のふり返りをもとに作成されていることは、提出された資料等からしっかりと読み取れる。また、そのような教育・保育の在り方を保護者へ携帯メールで定期的に伝えるような独自のシステムを構築できている。</p> | | |

3) 環境の構成

| | 調査項目 | 確認結果 |
|---|---|------|
| 1 | <園舎等の空間>子どもたちが遊び込むことができる時間の配慮、自由な遊びコーナーなど、子どもの自主性・自発性を尊重すると共に、子ども同士の関わりや遊びが豊かに行われる空間環境が工夫されている。 | 済・未 |
| 2 | <遊具・家具・絵本・廃材などについて>子どもの成長に合わせた遊具や絵本が、子どもの手の届く場所に適切な量で用意され、子どもが自由に選び、興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊びを展開できるよう配慮されている。 | 済・未 |
| 3 | <園庭について>外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす楽しさを味わうことができ、かつ、子どもが安心して遊べる安全面に配慮された園庭等が確保されている。 | 済・未 |
| 4 | <動植物の飼育、栽培について>身近な動植物に親しみを持って接し、飼育や栽培を経験することで生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする環境が確保されている。 | 済・未 |
| 5 | <リズム・造形等の表現活動などについて>リズム・造形等の多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境の構成がされている。 | 済・未 |
| 6 | <数量・図形・文字標識などの環境について>数量や図形、文字や標識に自然に触れ合えるような環境が工夫されている。 | 済・未 |
| 7 | <衛生管理について>施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。また、自分の健康に関心が持てる工夫や、病気予防のための配慮がされている。 | 済・未 |
| 8 | <メンテナンスについて>手洗い場や机・椅子等、子どもの身体にあった大きさを整えられ修繕されている。 | 済・未 |

(コメント)

公開保育を見ても、子どもたちが、のびやかに自主性自発性を発揮しながら遊べる環境があることは明らかである。園内遊具は手づくり遊具も多く子どもの姿に応じた保育者の思いが深い環境の構成がなされていると感じる。園庭は感触の違いのある砂や泥に分けた2つの砂場に分けるなどの工夫がされ、それらには、子どもたちが自分で遊びを創り出す園庭としたいという園長の願いがある。さらに数量・図形・文字標識などに自然にふれ合ったり、リズム、造形等の活動も指導計画および環境の構成から豊かに展開されていることが分かる。園舎内の清掃は良好であり、衛生管理については、看護師の指導も受けて進めている実績がある。

4) 実践

| | 調査項目 | 確認結果 |
|---|---|------|
| 1 | 乳幼児期にふさわしい生活が展開されている。 (1)子どもが保育者を信頼し、自分が受け入れられ見守られているという安心感を持って生活できるような配慮をしている。 (2)興味や関心に基づいた直接的、具体的な体験の積み重ねを大切にした教育・保育が行われている。 (3)子どもが友達と十分にかかわって生活できるような配慮をしている。 (4)子どもの発達の過程に応じて、適切な運動と休息をとることができるようにしている。 (5)在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。 | 済・未 |
| 2 | 子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している。 (1)子どもが主体的に、遊び込める時間と空間を保障している。 (2)子どもが自分の目的を持って、考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている。 (3)子どもの主体的な活動を促すために、保育者が多様な関わりを持ち、様々な役割を果たすように努めている。 (4)子どもが周囲の自然に親しみを持ち、それらを生活や遊びに取り入れたり、生命を大切にする気持ちが養われたりするような援助をしている。 (5)子どもの発達の過程に応じて、協同して遊ぶ活動を取り入れ、友達同士が互いの存在を認め合い、一緒に遊ぶ楽しさや喜びが味わえるような援助をしている。 | 済・未 |
| 3 | 遊びを通した総合的な指導を行っている。 (1)子どもが主体的に環境にかかわって遊びを展開する中で、心身の発達にとって必要な経験が相互に関わりながら積み重ねられている。 (2)子どもが発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、指導している。 | 済・未 |

| | | |
|---|--|-----|
| 4 | <p>子ども一人一人の特性や発達のプロセスに応じた指導をしている。</p> <p>(1)子ども一人一人の発達のプロセスや生活環境等を把握し、その子の発達の特性や発達の課題を理解して指導をしている。</p> <p>(2)子どもが主体的に周囲の人や物に働きかけることができるよう、環境の構成を工夫している。</p> <p>(3)子ども一人一人が自分の思いや考えを出していく中で、互いの違いを認め合い、尊重し合う心が育つような援助をしている。</p> <p>(4)特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の教育・保育に当たっては、ほかの子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。</p> | 済・未 |
| 5 | <p>行事等を通して、園生活に変化や潤いを与えられるよう工夫している。</p> <p>(1)季節の行事や誕生会等を通して、子どもが季節感や文化などを体感できるようにしている。</p> <p>(2)子どもが行事に期待感を持ち、主体的に取り組んで、喜びや感動、達成感が味わえるような配慮をしている。</p> <p>(3)園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加したりする等、子どもが地域の人々と交流し、社会に対する興味や関心を持つような機会を作っている。</p> | 済・未 |
| <p>(コメント)</p> <p>園行事等については、日頃の保育の中から子どもの視座に立ったものを、ひとつひとつ積み上げながら創っていくような取り組みを進めている。乳幼児時期にふさわしい園生活が展開されているという実感が伝わる。保育のふり返りのエピソード記録を読んでも、その子その子の「思い」を受けとめて保育を考えていることが理解できる。地域との交流は積極的におこなっていきたいという強い願いはあるが、創立間もないこともあり、これからの課題でもある。</p> | | |

5) 記録・振り返り

| | 調査項目 | 確認結果 |
|---|---|------|
| 1 | <p>個人の記録や集団の記録、エピソード記録等、子どもの状態と園の方針や仕組み等の状況に応じて、必要な記録を適切に行っている。</p> | 済・未 |
| 2 | <p>記録を客観的に振り返ったり、保育者間で話し合ったりして、次の教育・保育の計画に活かしている。</p> | 済・未 |

| | | |
|---|--|-----|
| 3 | 適宜、保育者間のカンファレンスが行われ、実践の振り返りと適切な評価の機会がある。 | 済・未 |
| 4 | 情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の中で、園としての評価結果の共有や課題発見が行われ、計画・実践に適切に反映されている。 | 済・未 |
| 5 | 園内で共有された子どもの育ちや実践の過程、または評価結果について、保護者や地域社会等の園外に向けて適切に発信し、共有していく努力をしている。 | 済・未 |
| <p>(コメント)</p> <p>カリキュラム全般の資料の提出がなされ、それらを見ても、必要な記録は適宜なされている。また、保育者間の協議・カンファレンスについては多く機会がとられ、情報共有ができる同僚性豊かな保育者集団が形成されていることがわかる。子どもの活動や様子を撮影した写真等を保護者に開示する試みや携帯電話のメール利用をした保育の開示方法などの工夫や努力は評価すべき点が多い。</p> | | |

⑤家庭・地域連携

| | 調査項目 | 確認結果 |
|---|--|------|
| 1 | 小学校教育との円滑な接続のために教育・保育の内容を工夫している。 | 済・未 |
| 2 | 子どもの成長発達について保護者との連携を行い、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている。 | 済・未 |
| 3 | 自己評価・関係者評価に取り組み、その結果を保護者や地域に伝える等、園全体で教育・保育の質の向上のために改善がなされるよう手立てを行っている。 | 済・未 |
| 4 | 子育て親育ちの場として、地域における子育ての支援に関するセンター的役割を果たしている。 | 済・未 |
| 5 | 教育時間終了後等に行われる保育は、子どもの生活にふさわしい指導計画の下に行っている。 | 済・未 |
| 6 | 地域の資源を積極的に活用し子どもが豊かな生活体験を得ることができるような機会を設けている。 | 済・未 |
| <p>(コメント)</p> <p>家庭・保護者への連絡や伝達については、連絡帳を利用しておこなったり、園独自の「連絡だより」の様式を考え、それを活用している等々、子どもの成長・発達について家庭や保護者との連携を深めていく方策を多様に工夫している。また、子育て・親育ちの場として親子登園や子育て講演会等をおこなって家庭・地域連携をひろげている。遠足等の場として地域の環境や施設をうまく利用している実践も多い。</p> | | |

公開保育コーディネーターからの報告

園長・主任のリーダーシップのもと教育課程・カリキュラムが組まれている。その考えが教職員にも伝わっていて、教育に反映されていた。特に評価の高い点として、子どもたちの主体性をどのように伸ばしていけるのかなど、学年を超えての繋がりを以上児カンファレンス・未満児カンファレンスの研修時間をとり 0～6 歳までの子どもたちの育ちの共有ができています。

課題として以前の幼稚園の教育方針から保育内容を一新した、創立 3 年目の認定こども園であり、教職員も一新されお互いの教育観をすり合わせている段階である。園長・主任のリーダーシップのもと新しい認定こども園づくりをしている段階なので、教育観を出し話し合いながら新しいにじのはねこども園を作り上げることが課題とされる。

公開保育を自園で行うと決定した時点で、園長以下全職員が自園の保育の質を高めていきたいという思いが読み取れた。園を訪問する中で、自園の良さと課題点が職員間で共有されていることがわかり、日常の保育が保育者だけでなく、給食室の職員や事務職員などの協力の上に、「にじのはねこども園」の常に子どもの視点で考える保育が構築されていることを実感した。

公開保育終了後は、自園の良さを認められた誇らしさと自信が、課題の解決に向かうエネルギーとなっていた。今後も全職員が協力し、継続して園の課題解決に取り組み、園の良さを更に高めていかれることを期待したい。

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

< B 運営 >

①運営体制

| | 調査項目 | 確認結果 | 確認・評価視点等 |
|---|---------------------------|------|---------------|
| 1 | 教育・保育に対する理念や方針が明確である。 | 済・未 | 園パンフレットにて確認 |
| 2 | コンプライアンスを遵守し、管理体制を構築している。 | 済・未 | 公認会計士書類によって確認 |
| 3 | 会計事務を適切に行っている。 | 済・未 | |
| 4 | 人材確保や継続して勤務できる職場環境である。 | 済・未 | 職員履歴のよって確認 |

| | | | |
|---|--------------------------------|-----|-------------------|
| 5 | 教育及び保育の質を向上させるための運営体制が整備されている。 | 済・未 | 職員会議議事録によって確認 |
| 6 | 適切な教育環境を維持するために必要な財源が確保されている。 | 済・未 | 決算書類によって確認 |
| 7 | 学校評価を実施している。 | 済・未 | 自己評価票を確認 |
| 8 | 適正な法人運営を行っている。 | 済・未 | 法人理事会・評議員会録議事録の確認 |
| <p>(コメント)</p> <p>系列の高等学校と共通した事務体系を持っており、事務管理体制は整えている。保育教諭数も基準以上に配置できるよう配慮されており、良質な環境の下で質の高い保育を行なっている。</p> | | | |

②安全管理

| | 調査項目 | 確認結果 | 確認・評価視点等 |
|---|--|------|---------------|
| 1 | 自然災害や事故等を想定した危機管理マニュアルを策定し、訓練を実施している。 | 済・未 | 訓練記録によって確認 |
| 2 | 教育・保育における危機管理マニュアルを定期的に見直している。 | 済・未 | マニュアルにて確認 |
| 3 | 園舎、遊具及び車両の安全点検や環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。 | 済・未 | チェック表を確認 |
| 4 | 園児の衛生・健康管理に努めている。 | 済・未 | 衛生管理マニュアルにて確認 |

(コメント)

周囲は広い空地の中に園があり、火災や地震が発生しても大きな被害は考えにくい。園具のチェックや避難訓練も定期的に行なっており、安全管理に関して十分な体制をとっている。

③子育ての支援

| | 調査項目 | 確認結果 | 確認・評価視点等 |
|---|--|------|---------------|
| 1 | 学び発達の連続性を確保するために、小学校と連携をはかり、地域の関係機関や団体と交流し連携をはかっている。 | 済・未 | 研修会記録にて確認 |
| 2 | 園児の成長を通じて、保護者の親育ちを支援する取り組みを行っている。 | 済・未 | 園だより・個別記録にて確認 |

(コメント)

保幼少連携など外部組織との連携を図り、一人一人の子どもの育ちを支えるとともに、その内容を小学校にも伝えるよう努力している。